

あいはらの木

カホンキット 想い-OMOI-のお買い上げ

誠にありがとうございます！

内容物一覧（共通）

- ・シナ共芯合板 天板用（小） 2枚
- ・シナ共芯合板 側板用（大） 2枚
- ・シナ共芯合板 背面用穴開き 1枚
- ・お選びいただいた樹種の打面 1枚
- ・平タッピングねじ（小） 23本
- ・トラスタッピングねじ（小） 11本
- ・ゴム足 白 4セット
- ・紙やすり（240・400） 各1枚
- ・木工用ボンド 1個
- ・ミニ 四ツ目きり 1本
- ・ミニ さしがね 1本

- ・木ねじ（大） 4本
- ・半スナッピー 2枚
- ・棒材 1本
- ・凹材 2個
- ・ゴムと輪っかのセット 1個
- ・フック 1個
- ・ヒートン 1個
- ・スナッピー止め用ネジ（小） 4本

①箱を組み立てよう！

垂直に材のツラを合わせてボンドを塗り

貼りつけましょう。

天板と底板は木目が横向きです。

ボンドの塗り方は、薄く平らに指で伸ばし、重しを載せて接着します。

はみ出したボンドは塗れた布やウェットティッシュで乾く前にふき取って下さい。

その後の加工ができるようになるまで約1時間待ちましょう。



接着の強度を上げるのは接着時の圧力です。
接着時、上に重しを載せる強度が増します。

あいはらの木カホンキット 作り方目次

スナッピータイプ カホンキットの組み立て方法

① 箱を組み立てよう！

② 打面を付けよう！

③ 内部の響き弦機構を作ろう！

④ 背面を付けよう！



箱の組み立てに使用するのは、木工用ボンドだけです。
きちんと正しく接着ができれば十分な強度が出ます。

箱を組み立てる時のポイント

- ・ツラをピッタリと合わせましょう。
- ・垂直をしっかり確認しましょう。

付属のさしがねを使い、垂直を確認してください



②打面を付けよう！

1、打面は皿取穴（へこみ）が11開いているほうが上です。

2、打面をピッタリと箱に合わせて四ツ目きりで側板に3mmほど下穴をあけてください。



内部の響き弦の機構を作ろう！

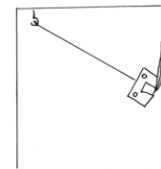
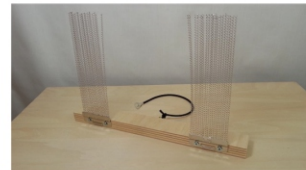
1、棒材に平ねじ（小）でスナッピーを固定します。
2、ヒートンを側面にねじ込みます。
3、ゴムと輪っかのセットをヒートンに結び付けます。

右の写真のような物を作ります。

（スナッピーの取り付け位置はお好きな位置にどうぞ）

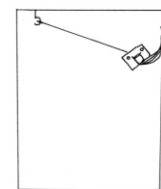
4、打面をたたきながら内側からスナッピーを当て、好みのバズ音の位置を探してください。

- ・当てる位置が低ければ ローでもバズ音がなります。
- ・面積が多ければ バズ音の存在感が増します。
- ・当てる力（角度）が強ければ パリッと歯切れのよい音になります。



①カホン打面の中央付近から角度10°ぐらいで優しく当てる。

バシャバシャとしたバズ音がでます。



②打面上部に45°ぐらいの角度で強めに当てる。

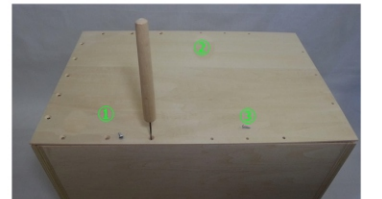
ロー時 バズ音小
ハイ字 バズ音と叩き分けができます。

取り付けは、一か所づつ絞めるのではなく、右図のように離れた場所からとめていくとうまくいきます。

取り付けの際に発生する打面のズレを修正しながら取り付けたらよいでしょう。

3、皿取穴がある11個の穴はトラスタッピングねじを取り付けてください。

+ドライバーは1番（小）です。



4、残りの穴は平タッピングねじ（小）を取り付けます。+ドライバーは2番（大）です。

5、ココだ！という位置を探したら箱の内側、決めた棒の位置に鉛筆等で印をつけましょう。
コの字に書くとその後の工程がやりやすいです。
左下の図に当て方の例があります。参考にしてください。



6、凹型の材料を鉛筆で書いた線に合わせて内部に組み込みましょう
四ツ目きりでねじ穴に当たりを付けると取り付けやすくなります。



7、フックをカホン天板裏側の背面側へねじ込みます。



背面を付けよう！

背面を付けましょう。

+ドライバー2番 とタッピングねじ（小）を使用します。

打面と同じようにしっかり下穴を開け取り付けてください。



カホンの底にゴム足（白）を取り付けましょう。



仕上げに付属の紙やすりで材料のバリや角を取り除いて下さい。
240番→400番の順番で行ってください。



**お疲れさまでした！
これでカホンは完成です！！**

ここから先は、あなたの好みに合わせたカホンに近づけていきましょう。

この先の別紙の工程には別途工具が必要となります。必要に合わせてご用意ください。



カホンキット 櫻 -OMOI-のお買い上げ

誠にありがとうございます！

あいはらの木

内容物一覧 （共通）

- ・シナ共芯合板 天板用（小） 2 枚
- ・シナ共芯合板 側板用（大） 2 枚
- ・シナ共芯合板 背面用穴開き 1 枚
- ・お選びいただいた樹種の打面 1 枚
- ・平タッピングねじ （小） 23 本
- ・トラスタッピングねじ（小） 11 本
- ・ゴム足 白 4セット
- ・紙やすり（240 ・ 400） 各 1 枚
- ・木工用ボンド 1 個
- ・ミニ 四ツ目きり 1 本
- ・ミニ さしがね 1 本

ワイヤータイプ

- ・木ねじ （大） 13 本
- ・棒材（側面穴アリ） 2 本
- ・棒材（側面穴無） 1 本
- ・ワイヤー 4 本
- ・ターンバックル 4 個
- ・マジックテープ 1 枚

あいはらの木カホンキット 作り方目次

ワイヤータイプ カホンキットの組み立て方法

ワイヤータイプは先に響き弦の機構を作り、
その後に打面と背面を取り付けます。

- ① 箱を組み立てよう！
- ② 内部の響き弦機構を作ろう！
- ③ 打面を付けよう！
- ④ 背面を付けよう！



①箱を組み立てよう！

垂直に材のツラを合わせてボンドを塗り
貼りつけましょう。
天板と底板は木目が横向きです。
ボンドの塗り方は、薄く平らに指で伸ばし、
重しを載せて接着します。
はみ出したボンドは塗れた布やウェットティッシュで乾く前にふき取って下
さい。
その後の加工ができるようになるまで約 1 時間待ちましょう。



箱の組み立てに使用するのは、木工用ボンドだけです。
きちんとした接着ができれば、これで十分な強度が出ます

箱を組み立てる時のポイント

- ・ツラをピッタリと合わせましょう。
- ・垂直をしっかり確認しましょう。

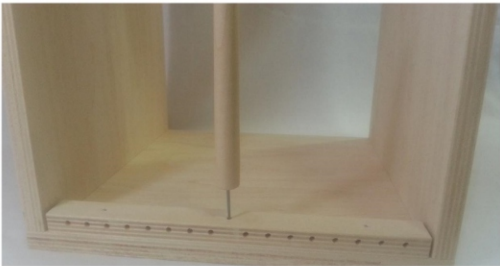
付属のさしがねを使い、垂直を確認してください



ボンド接着強度を上げるのは接着時の圧力です。
接着時に上から重しをするとカホンの強度が増します。

②内部の響き弦の機構を作ろう！

- 1、穴の開いた棒材（穴アリ）を打面側の天板と底板にとりつけます。
位置を合わせたら四ツ目きりで 3 mm ほど仮穴を開け、取り付けはねじ
（大）を使います。ドライバーでねじ込んでください。



- 2、取り付けた棒材にワイヤーを通します。
ワイヤーの通し方でバズ音の印象が変わります。
例・V の字にする・ハの字にする・直線に張る



- 3、ワイヤーにターンバックルを引っ掛けます。

ターンバックルはテンション調整で絞めるため、一番長くしておくこと
をオススメします。

- 4、ターンバックルが伸びた位置に棒材（穴無）を木ねじ（大）で固定しま
す。ワイヤー 4 本全てにテンションがかかる位置に固定。

ターンバックルを引っ掛ける為の木ねじを棒材にねじ込みます。ねじ部分が
埋まるぐらいまで入れてください。ターンバックルは 4 つ入っていますので
弦が遠い場合は 4 個使ってください。

それでもワイヤーが遠い場合は穴の感覚を隣どおしにしてみてください。

- 5、ターンバックルを回す事で弦のテンション調整が出来ます。

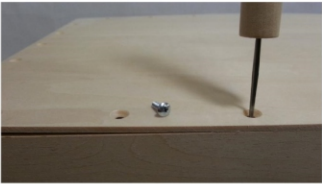
- 6、付属のマジックテープでバズ音の調整が出来ます。

響き弦と打面の間に挟み、上下に動かすことで打面との接触を調整できます。



③打面を付けよう！

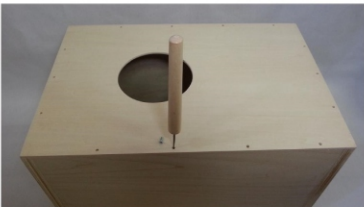
- 1、打面は皿取穴が 11 開いている
ほうが上です。



- 2、打面をピッタリと箱に合わせて
四ツ目きりで側板に 3 mm ほど下穴を
あけてください。

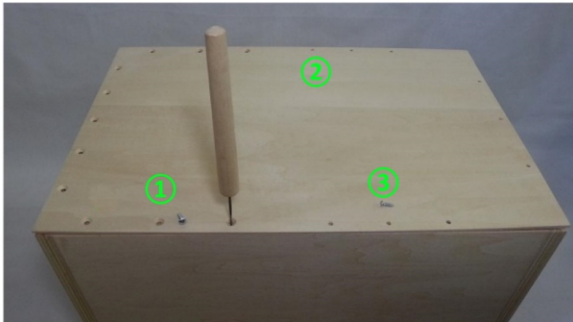
④背面を付けよう！

- 1、背面を付けましょう。
+ドライバー 2 番 とタッピング
ねじ（小）を使用します。
打面と同じようにしっかり下穴を
開け取り付けてください。



取り付けは、一か所づつ絞めるのではなく、下写真のように離れた場所から
とめていくとうまくなります。
取り付けの際に発生する打面のズレを修正しながら取り付けたとよいでし
ょう。

- 3、皿取穴がある 11 個の穴はトラスタッピングねじを取り付けてください。
使用する+ドライバーは 1 番(小) です。
- 4、残りの穴は平タッピングねじ（小）を取り付けます。
使用する+ドライバーは 2 番（大）です。



- 2、カホンの底にゴム足（白）を
取り付けましょう。
- 3、仕上げに付属の紙やすりで材
料のバリや角を取り除いて下さい。
2 4 0 番→4 0 0 番の順番で行っ
てください。



お疲れさまでした！
これでカホンは完成です！！

ここから先は、あなたの好みに合わせたカホンに
近づけていきましょう。
この先の別紙の工程には別途工具が必要となりま
す。必要に合わせてご用意ください。



カホンキット特別付録 カホンに関する考察より

目次

カンナ、やすりがけをしよう！

カホンの高さを自分に合わせよう！

カホンの塗装をしよう！

あなたのカホンを変える！？こんなアイテムもあります。

背面サウンドホールの位置と大きさを変えてみましょう。

ワイヤータイプ ワイヤーを交換してみましょう。

スナッピータイプスナッピーを交換してみましょう。

打面の浮かし具合を調整してみましょう。

打面自体を変えてみましょう。

カンナがけ、やすりがけをしよう！

必要な工具・部材 カンナ・紙やすり

完成したカホンのカドが内股に当たって痛い！

そんな方はカンナがけ、やすりがけで角をとって

いきましょう。

カホンキットには240番400番の紙やすりもお付けしています。

打面の上部のカドもまるくできれば、

叩いた時に角が手に当たって痛い！

という心配も無くなります。

好みに合わせて丸みを付けましょう。

カンナはホームセンターに売っている小さい物で十分です。

やすりの番手は 400→800 ぐらいまでやればだいぶなめらかになります。

お好みで 1000→1500→2000 ぐらいまで細かくしていけば更にツルツルになります。（耐水ペーパーは材料が少し黒ずむことがあります）

画像は左から うるし風塗装・シリコン塗装・ウレタン塗装・アクリル塗装・無塗装です。

刷毛で塗る場合も、スプレーで塗る場合も

乾燥後に800→1000→1500→2000の順で紙やすりをかける事で表面はツルツルになります。

あなたのカホンを変える！？こんなアイテムもあります。

鈴

鈴は設置位置によってシャラシャラという音をプラスする事ができます！100円ショップにも売っています。アクセントにどうぞ！和風の鈴、洋風の鈴、鈴の大きさでも印象が異なります。

スナッピータイプの場合は、響き弦機構のゴム部分に付けたり、ワイヤータイプの場合はワイヤーに付けたりするのが一般的です。

タオル

ファサッと打面に当てるように入れてみると低音に輪郭が出ます。

バスドラムの中に入っている毛布のような役割をします。

スナッピーを交換してみましょう。

スナッピータイプの場合は、ねじを外すだけでスナッピー自体を交換することが出来ます。

ドラムセットの中のスネアと同じように、スナッピーが変わるとバス音のキレが変わります。

カホンキットにお付けしているのはドラムセットに最初からついているタイプのスナッピーです。

スナッピー自体にも様々な特徴があるので、色々試して自分好みの音色を探してみましょう。

当て方を変えると音色も変わりますので色々調整してみるのも面白いでしょう。

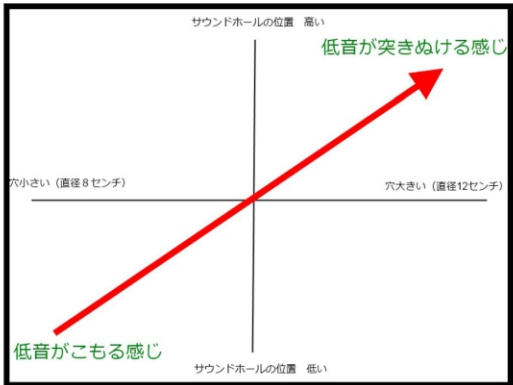
背面の穴（サウンドホール）の位置、大きさを変えてみましょう。

必要な工具 背面の板 電動ドリル ヤスリ 等

あいはらの木 カホンキットはあらかじめサウンドホールが開いております。センターより上部に開いているので、一度取り外して上下逆さに付けるだけで音の印象が変わってきます。

カホンキットとは別に、穴無しの背面だけの販売もしておりますので好きな大きさ、好きな位置のサウンドホールを持つカホンに改造する事が出来ます。

サウンドホールの位置と穴の大きさを変えることでの変化は以下の図のようになります。



ワイヤータイプ

ワイヤーを交換してみましょう。

ワイヤータイプは、ターンバックルを緩めるだけでワイヤーの脱着が可能です。付属しているワイヤーは通常の太さ1mmワイヤーです。

本数を変えたり、穴の位置を変えてみたり、ギター弦に変えてみたり、ワイヤー自体の太さを変えたりして好みのバス音に近づけて行きましょう。

打面の浮かし具合を調整してみましょう。

今回お作り頂いたカホンキットは、1番のプラスドライバーで打面の浮き具合の調整が出来ます。

打面を浮かすことで、存在感のあるスラップ音を出したり、響き弦の存在感を増せたりします。

打面調整のコツは調整するネジを回す順番です。図の①から順番に少しずつ調整してみましょう。

打面自体を変えてみましょう。

あいはらの木 カホンキットでは打面を7種類取り扱っております。

3mm突板化粧合板6種類にシナ共芯合板3mmです。

塗装と材料の兼ね合いで音色が変化します。

あいはらの木

あいはらの木のウェブサイトです
カホン・K U B Bの情報はコチラから



あいはらの木のFacebookページです！
いいね！を押していただけると嬉しいです！



あいはらの木のブログです。
最新情報はコチラで更新中！

